

令和4年度第1回教育振興審議会 会議録

1. 開催日時

令和4年8月10日（水） 午後2時～4時5分

2. 開催場所

石鳥谷総合支所 3階 大会議室

3. 出席者

(1) 委員 8名

富士大学 経済学部教授 藤原 忠雄
岩手県立花巻北高等学校 校長 須川 和紀
花巻市教育振興運動推進協議会 監事 永井 紳逸
花巻市校長会 会計（大迫小学校 校長）宮川 琢夫
花巻市私立幼稚園協議会 会長 照井 義彦
花巻市法人立保育所協議会 会長 打田 修子
わかば学童クラブ 主任支援員 坂本 知彌
公募委員 吉田 ひろみ

(2) 事務局 17名

教育長 佐藤 勝
教育部長 菅野 圭
教育部教育企画課長 小原 賢史
教育部学務管理課長 八重畑 亘
教育部学校教育課長 及川 仁
教育部こども課長 大川 尚子
教育部文化財課長 鈴森 直明
教育部博物館副館長 佐藤 恒

生涯学習部長 市川 清志
生涯学習部生涯学習課長 佐々木 正晴
生涯学習部賢治まちづくり課長 鈴森 早織
生涯学習部スポーツ振興課長 菅原 一憲
生涯学習部花巻図書館長 梅原 奈美
市民生活部市民生活総合相談センター所長 坊澤 尚行

教育部教育企画課長補佐 畠山 英俊
教育部教育企画課総務企画係長 瀬川 千香子
教育部教育企画課総務企画係主事 荒木田 美月

4. 議事及び報告事項

- (1) 副会長選出
- (2) 報告事項1 令和4年度花巻市内小中学校児童生徒数の推移と今後の見通し
- (3) 報告事項2 岩手県学習定着度状況調査結果
- (4) 報告事項3 令和3年度花巻市内問題行動等概要
- (5) 報告事項4 令和3年度不登校児童生徒の実態
- (6) 報告事項5 小中学校体力運動能力調査結果
- (7) 報告事項6 市内保育園・幼稚園・認定こども園等入園状況
- (8) 審議1 第3期花巻市教育振興基本計画実施計画令和3年度主要事業の実施状況について
- (9) 審議2 第3期花巻市教育振興基本計画実施計画（令和4年度）（案）について

5. 議事録

（小原教育企画課長）

只今から、令和4年度第1回花巻市教育振興審議会を開会いたします。

はじめに、花巻市教育委員会 佐藤勝教育長より挨拶を申し上げます。

（佐藤教育長）

本日は大変お忙しいところ、雨模様の中ご出席いただき大変ありがとうございます。

本年度第1回目の審議会でございます。この審議会は、教育、保育、児童福祉等、各専門領域に造詣の深い方々で構成される審議会でございます。そして、新たに委員をご承引くださいました、本日ご出席の花巻北高校の須川校長先生をはじめ、継続して委員をご承引いただいております皆様に、よろしくお願いしたいと思います。

さて、教育委員会は、花巻市において人づくりを担当しており、この基本となるのが、この教育振興基本計画でございますが、指標を設定しながら事業を進めております。そして、法の定めにより点検、評価を行い、その結果を議会に提出して公表することが義務づけられております。この点検、評価の調査、審議をお願いするのが、当審議会でございます。

本日は、令和3年度主要事業の実施状況について、それから、第3期花巻市教育振興基本計画の令和4年度分実施計画についてご報告し、ご審議の上、ご意見を頂戴したいと思います。

昨今、国の教育をめぐる方針の変更等で、教育環境は大きく変わってきております。したがって、様々な教育課題も生まれておりますが、ぜひ、皆様ご専門の分野に限らず教育全般について、忌憚のないご意見をいただき、今後、改善を果たしていくために、お力をいただ

ければと思います。よろしくお願いいたします。

(小原教育企画課長)

続きまして、次第3、委員紹介であります。委員名簿の順に、本日出席の委員の皆様を紹介させていただきます。

はじめに、富士大学経済学部教授 藤原忠雄会長です。

岩手県立花巻北高等学校校長 須川和紀委員です。

花巻市教育振興運動推進協議会幹事 永井紳逸委員です。

花巻市校長会会計 大迫小学校長 宮川琢夫委員です。

花巻市私立幼稚園協議会会長 照井義彦委員です。

花巻市法人立保育所協議会会長 打田修子委員です。

わかば学童クラブ主任支援員 坂本知彌委員です。

公募委員 吉田ひろみ委員です。

以上が、本日出席の委員の皆様になりますが、本日は、花巻市校長会幹事 佐藤敦士委員、花巻市PTA 連合会副会長 阿部貴弘委員、一般財団法人花巻市体育協会会長 似内利正委員、公益社団法人花巻青年会議所理事長 安部修司委員、花巻幼稚園つくしの会副会長 鎌田和明委員、社会福祉法人光林会理事長 三井信義委員からは、ご都合により欠席される旨のご連絡をいただいております。

続きまして、次第4、副会長選出であります。

昨年度の審議会において、本審議会の会長には、富士大学経済学部教授の藤原忠雄委員、副会長には花巻北高等学校の前校長の川村俊彦さんをご選出いただいておりますが、定期人事異動のために、本年3月で副会長の川村俊彦さんが異動され、現在、副会長が空席となっております。

審議会条例第4条の規定では、「審議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。」とあります。事務局案で大変恐縮ですが、もし、皆様がよろしければ、花巻北高等学校長の須川和紀委員に副会長をお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

(小原教育企画課長)

「異議なし」ということですので、副会長には須川和紀委員をお願いしたいと思います。拍手をもって承認いたします。

(拍手)

(小原教育企画課長)

ありがとうございました。

続きまして、次第5、報告事項といたしまして、教育委員会事務局の各課よりご報告いたします。質疑につきましては、一通り報告が終わった後に一括してお受けしたいと思います。

はじめに、八重畑学務管理課長より報告いたします。

(八重畑学務管理課長)

花巻市内小中学校児童生徒数の推移と今後の見通しについて説明します。

資料No.1の1ページをご覧ください。小学校の状況になります。2ページ目は、中学校の状況、3ページ目は小中学校全体の状況です。小中学校ともに、この表では、平成18年度の最大人数から減少している状況となっております。

4ページは、これらの人数を割合として表したものでございます。上から2つ目の表をご覧ください。

学校種ごとに見ますと、小学校で令和4年度人数は4,208人、令和3年度と比べて71名の減となっております。小学校では、最大人数が平成18年の5,710人でしたが、令和4年度は、平成18年度に比べて1,502名の減となっております。平成18年度の最大人数を10とすると、令和4年度は7.4という割合になります。同様に中学校では昨年度より99名の減、平成18年度の最大人数を10とすると、今年度は7.3という割合になります。小中学校合わせた全体では、今年度の割合は7.3となります。

上の表は、学校ごとに最大人数に対する令和4年度の割合を表しており、小学校全体の7.4の割合以上の学校を黄色、最大人数の半分より少なくなった学校を緑色で表しています。この中で、若葉小学校だけが、今年度が最大人数ということで割合が10となっております。中学校についても同様です。

一番下の表は、それぞれの学校数を表しています。令和4年度が最大人数に対して9割以上なのは小学校1校のみです。平均以上は、小学校6校、中学校7校、5割以下の学校は、小学校で2校、中学校で1校となっております。

その左側の表は、平成18年度から比べて、一年間でどれくらいの人数が減少したかを表しています。小学校では毎年100名近く減少、中学校では毎年50名以上減少している状況です。ここから数年後に何人の減少となるかということ、小学校で100、中学校で50という数字から予想されるところです。

以上で、児童生徒数の推移について説明を終わります。

(小原教育企画課長)

次に、及川学校教育課長より報告いたします。

(及川学校教育課長)

市内児童生徒の学力、体力等の状況につきまして、令和3年度に行われた各種調査結果をもとにご報告いたします。

資料No.2をご覧ください。こちらは、岩手県学習定着度状況調査結果のうち、平均正答率

を経年でまとめた資料となります。右端が令和3年度になりますが、小学校5年生の国語、算数は、ほぼ県平均並みとなっております。中学校2年生について、国語は県平均を3ポイント上回っておりますが、数学は1.9ポイント減、英語は1.1ポイント減となっております、ここ数年は同様の傾向が続いております。

児童生徒の学力の向上は重要な課題でありますので、現在、学力向上アクションプランを策定し、それに基づいて、授業改善や家庭学習の充実に取り組んでいるところであります。

続きまして、資料No.3をご覧ください。こちらは、児童生徒の問題行動等の発生件数を経年でまとめた資料となります。上段の表が問題行動の発生件数になりますが、令和3年度の合計は15件で、令和2年度比1件増となっております。詳細は控えさせていただきますが、最近の問題行動では、インターネット関連、特にSNSやオンラインゲーム等での繋がりやトラブルが関係していることが目立つようになってきております。

交通事故、学校事故の合計は48件で、令和2年度比3件の減となっております。

いじめの認知件数の合計は273件で、令和2年度比で60件の増となっております。教育委員会では、各学校に対していじめの芽やいじめの兆候が見られた段階で、積極的にいじめとして認知し、早期に組織的に対応するよう指導してきた結果であると、増加はしておりますが肯定的に捉えているところであります。

市内不登校の状況につきましては、資料No.4をご覧ください。

上段の表の一番下です。令和3年度に年間30日以上欠席した児童生徒数は、小学生が26名、全児童に占める割合、出現率は0.62%となっております。中学校は94人で、出現率は3.91%となっております。市内の不登校の出現率は、以前は横ばいで推移しておりましたが、ここ数年は増加傾向となっておりますので、教育委員会としましても、不登校児童生徒やその保護者に対して、生徒支援や教育相談員、スクールソーシャルワーカーによる教育相談や家庭訪問のほか、スクールカウンセラーによりカウンセリングを実施するなど、各校における取組を支援しているところであります。

続きまして、資料No.5をご覧ください。スポーツ省が実施した令和3年度の体力・運動能力調査結果となります。表中、青く塗り潰してあるのは、市の平均が、全国、県の平均より優れている項目でございます。

1ページは小学校の男子ですが、ソフトボール投げは半数以上の学年で、全国、県平均を上回っておりますが、握力は全ての学年で、全国、県平均を下回っております。

続いて2ページをご覧ください。小学校の女子は、ソフトボール投げは全ての学年で、全国、県平均を上回っておりますが、握力は全ての学年で、全国、県平均を下回っております。男子と同様の傾向です。

3ページをご覧ください。中学校の男子は、立ち幅とび、ハンドボール投げは全ての学年で、全国、県平均を上回っておりますが、反復横とび、50メートル走は、全ての学年で全国平均を下回っております。

4ページをご覧ください。中学校の女子は、握力、立ち幅とび、ハンドボール投げは全て

の学年で、全国、県平均を上回っておりますが、反復横とびは、全ての学年で、全国、県平均を下回っております。青く塗り潰されている、全国平均を上回る項目の数ですが、小学校よりも中学校のほうが割合としては大きくなっております。おそらく、運動部活動に取り組む生徒が花巻市内は多いですので、その中で体力の向上が図られているからではないかと捉えているところであります。

学校教育課からの報告は以上となります。

(小原教育企画課長)

次に、大川こども課長より報告いたします。

(大川こども課長)

市内保育園、幼稚園、認定こども園の入園状況についてご報告いたします。

資料No.6をご覧ください。保育施設等についてです。保育施設の数、今年の3月末で閉園した保育所が1箇所あり、令和3年度の52施設から1園減り51施設となっております。入園児数につきましては、保育施設全体で、令和3年度比較で67名減の2,254名となっております。内訳は、公立が令和3年度比較で22名減の405名、私立の認可施設が28名減の1,799名、認可外施設は、17名減の50名となっております。

続いて、幼児教育施設についてです。今年の4月1日に認可保育園の1園が認定こども園に移行したことで、幼児教育施設の数、公立、私立合わせて17施設となっております。入園児数につきましては、幼児教育施設全体で、令和3年度比較で70名減の530名。公立につきましては10名の減、私立につきましては60名の減となっております。

一番下の総合計の欄です。市内の保育施設と幼児教育施設の入所児童数の合計となっております。5月1日時点で、2,784名が入所となっております。令和3年5月1日の入所者数が2,921名でしたので、比較すると全体で137名減っている状況でございます。

保育所の待機児童数についてですが、令和2年度、令和3年度と2年続けて4月1日の待機児童数は0人でしたが、保育士不足の影響もあり、令和4年度当初は、石鳥谷地域で3名の待機児童が発生したという状況でございます。

(小原教育企画課長)

報告につきましては、以上でございます。

ここまでの部分につきまして、ご質問等ございましたら、挙手の上、発言をお願いいたします。

(照井委員)

資料No.2、岩手県の学習定着度状況について、今のところ県よりも少し多いとか少ない数値になっています。来年から28年度の記載はなくなりますね。28年度の中学校国語は、県を1.8上回っております。29年度からの定着状況を見ると、ほとんど1を上回っていません。全国的に、秋田県はかなり点数が高いですね。花巻市として、県よりもプラスであるからよいということではないということで、例えば目安として、県よりも3点、5点多く目指すとか、学校教育の充実の中で、取り組んでいただければよいのではないかと感じました。

同様に、体力についてです。先ほどお話がありましたように、中学校はものすごくよいですね。1学年当たり測定種目が8種類ありますが、全国よりも優れているのが全学年合わせて15種目あり、6割近いですね。今後は学力も、県よりも高くなるように、今までの指導で点数が上がらないのであれば方法を考えていくとか、花巻の学習の定着度状況を上げていただければ大変ありがたいと感じました。目標のようなものがあれば、お聞かせいただければありがたいです。

(及川学校教育課長)

ご意見ありがとうございます。県の中でもどれぐらい上を目指すかということは、ご指摘のとおりだと思いました。岩手県自体、全国平均を下回っているところもありますので、やはり全国との比較も考えていきたいと思います。

参考になる資料はないのですが、令和4年4月に全国学習状況調査が行われましたので、本市の状況を口頭で報告いたします。小学校の6年生は、国語が全国66%に対して花巻市は66%と全国並みでした。算数は、全国63%に対して花巻市は61%、理科も全国63%に対して花巻市は61%と下回っておりましたので、全国平均並みにはもっていききたいと思っていますところでもあります。

中学校3年生の国語は、全国69%に対して花巻市は71%ということで、よい結果だったと思っています。一方、数学は全国51%に対して花巻市は48%、理科も全国49%に対して花巻市は47%と下回っている状況にありますので、まずは全国平均を目指して、授業改善あるいは家庭学習の充実、あるいは、土台となる学級経営の充実等、学校を支援してまいりたいと思っています。ありがとうございました。

(照井委員)

都市部との点数差が出ることはどうしてもあると思いますが、花巻市は市でありますし、満点は100点であるわけです。定着度が低くてもよいということにはならないと思います。全国、県の数値を下回ってしまった状況の中で、今の子どもたちをどうするかという問題に帰着するかと思います。中学校の体育調査のような結果になっていただければ、花巻として教育をしっかりとやっていると感じるのでご意見申し上げました。

(小原教育企画課長)

ほかにございませんか。

(藤原会長)

関連して、県の学習定着度調査は県だけで行っている調査ですが、前年とか、ここ10年とか比べるために、あまり大きな傾向の変化なく続けてきていると感じるところであります。平均より上回る地域、下回る地域があるのは当然のことですが、やはり照井委員がおっしゃったように、花巻市は市でありますし、小中学校は義務教育ですから地域差がないことが前提ですが、県平均を上回っていただきたいというのが、市民としてはあると思います。

それから、口頭でお話いただきましたが、国との比較については印刷物としてはなかなか目に触れることがないのですが、出さないのでしょうか。

(及川学校教育課長)

全国学力学習状況調査の結果につきましては、各小中学校で、それぞれの学区内では公表するようにしております。市全体につきましては、市のホームページに結果について公表しているところであります。今まで紙媒体では出しておりましたが、ホームページへの公表という形でとらせていただいております。

(藤原委員)

せっかくの場ですので、資料として出していただければより明確ですし、事前にいただければいろいろと分析してみたいと思っていますところでございます。

もう一つ、資料1で児童生徒数が減っているということですが、この数はどのようにして推計されているのでしょうか。人口が減少していることはもちろんありますが、産業構想によって、花巻、北上地区は、社会増としてやや増えてきている状況も言われているところでございます。令和16年まで推計されていますが、どのように考えて計上したかということをお聞きします。

(小原教育企画課長)

児童生徒数の推移の推計方法についてお答えいたします。

資料No.1の1ページをご覧くださいますと、上段が、令和5年から10年までの推移見込み、下段が11年から16年までとなっております。基本的な考え方として、2年生から6年生までは、そのまま持ち上がりの数字を1年ずつスライドしております。変化していくのが1年生の人数ということで、令和10年までの人数につきましては、出生数、それから、転居等で動く率を若干かけて推移を見込んでございます。令和10年まではある程度実数に近い数字が見込めるとしております。

今回、新たに令和11年以降ということで、6年分追加したものを本年度から推計してございますが、令和11年以降につきましては、まだ生まれていない子ども、どのくらい生まれるかわからない部分での推計なので、あくまで見込みなのですが、それまで入っていた1年生の人数、各校で5年間の平均をとっております。それに1年生の数字を加えて、先ほどと同じように、2年生以降は1年ずつスライドをした数値で見込んでいるものでございます。

(菅野教育部長)

補足いたします。藤原会長がおっしゃったように、花巻市ではここ数年社会増がプラスに転じているということで、よい傾向にはあるのですが、今後、産業の影響等で、社会増はなかなか推計しにくいことがございます。したがって、まずは出生数、自然の形で追っている状況でございますので、あくまで今、課長が申し上げた形で推計している数字ということで捉えていただきたいと思います。

(須川委員)

この審議会は市教育委員会の機関ですが、小中を卒業すると当然、高校に進学しますので、それを踏まえた上で委員として入れていただいているのではないかと解釈しております。

そういう意味では、先ほどもありましたが、県の学習定着度状況調査だけではなく、全国学調の結果も可能な範囲でご提供いただければと思います。高校になると、進学するにしても就職するにしても相手は全国なので、小中の時から全国と比べてというわけではないですが、そのような意識を小中の先生方にも持っていただくとよいのかなということで、私もそのとおりだと思いました。

一番気になるのは、中学生の生徒数、特に高校入試を考えると中3の生徒数が毎年気になるところです。本校でも実は、今年も定員割れしております。計算すると、今年の高校1年生よりも今の中学3年生が53名減っております。要するに1クラス以上減っているということです。5年先でも200名弱ぐらい生徒が減っていく中で、高校でも今、魅力化を図って取り組んでいるところです。そして、地域の方々と共同でやっていこうという話もしております。学級数が減っていく中で、小学校、中学校の統合まで進むかどうかはわからないのですが、どのように市教委として捉えているのか、話せる範囲で教えていただければと思います。

(小原教育企画課長)

市内の中学校統合ということでよろしいでしょうか。花巻市教育委員会といたしましては、平成31年4月に、「花巻市立小中学校における適正規模・適正配置に関する基本方針」を、教育委員会議の議決により策定してございます。それは、将来の実施計画ではなく、地域別にどういった方向性で考えていこうかという、あくまで指針を策定させていただいているものでございます。現在、策定以降進めているのは、実際に今、統合の成果として挙がっている部分としては、指針に掲げた複式学級校の解消に関して、当時ありました内川目小学校、亀ヶ森小学校を、令和3年4月に大迫小学校に統合したことがございますし、笹間第二小学校を笹間第一小学校と統合することが令和5年4月に予定されてございます。西南地区の小学校統合も見据えてということで、太田小学校を含めた統合も考慮することが、笹間地区の統合合意の一つの条件でありました。そのため、次に予定しているのは、西南地区の小学校統合が見込まれているところであります。

それから、基本方針の中で、花巻地域においては、統合、学区再編等を検討する場合には、小中一貫校も併せて検討するという方針がございます。現在、矢沢地区において、PTAを中心に検討が開始された状況であります。只今のお話にありました中学校統合については、現在教育委員会では、まだ具体的な検討は進んでいない状況でございます。

(須川委員)

ありがとうございます。高校でも当然再編計画があり、一旦、去年で後期計画は決まって今動き出しているのですが、生徒数をご覧になってわかるとおり、次の統合計画が当然入ってきます。今、高校入試の倍率は0.85倍で、盛岡市の学校以外はだいたい希望すれば入れる状態になっています。そのようなことも含めながら、高校の状況ももちろんお知らせしなければならぬと思いますし、可能な範囲で結構ですので、市の動きなどの情報を教えていただければと思います。本校も当然、花巻地区の生徒たちが中心に入学してきますので、今

後ともよろしくをお願いします。

(打田委員)

私はこども園に勤務しており、0歳からのお子さんをお預かりしています。

そもそも、なぜ子どもは生まれないのでしょうか。生まれないから今の話につながっていますよね。なぜ生まれないのかを議論してもしょうがないのですが、そこを考えるべきなのではないかと思います。今、国でもこの施策が主になっていくのではないかと考えております。

市議会でも、少子化が問題になっていると思います。保護者に対しての施策はたくさんありますが、子どもが考えていろいろなことができるように育つための場、ここに連れていったら様々なことが学べると思える場は花巻にあるのでしょうか。

出産から保護者に対しての支援をするのはよいことだと思うのですが、子ども中心に考えると、僕が生まれたら、私が生まれたら、ここ楽しいよねと思える場はあるのでしょうか。昔と今は違いますが、やはり子ども中心に考えなければならないのではないかと思います。

二十歳を過ぎて私たちの園に就職した方たちは、いつもスマホを使っております。その中で、固定電話を使うことができない、局番を知らない方がおります。スマホに映った局番を、これって何ですかと聞かれたのです。固定電話も少しずつなくなってきましたが、便利になるばかりでそのようなところが欠けていったから、学習しようと思っても力が入らないというところにつながっているのかもしれないかもしれません。私たちは教育と保育の連続性の中でいろいろなことを学ばせながら学校に上げてやる、小さいときのことをつなげていこうと思ってやっているのですが、学校に上がって単に便利なものを使うだけになってしまうと、残念に思う気持ちがあります。

私たちも、少子化を何とかしたいと思っており、なかなかうまくできることではないと思うのですが、第一に子どものことを思って教育、保育をしています。そして、いくらでも子どもが生まれ育つようにと思っております。いい子に育ったねと言ってあげたら保護者も喜びますし、それが、次につながっていったら、一人産もう、二人産もう、三人産もう、そこに花巻市として支援をしようと考えられると思います。

それから、自然は子どもに一番よい勉強の場ですので、自然の中で学んで、自分たちで考える力が育ち、学校に行って、こうしたら学習ができるだろう、友達とコミュニケーションがとれるだろうと思えば、学習能力が上がるかどうかわかりませんが、よいのではないかと思います。ですから、そもそも子どもが生まれないのはなぜかということを考えていただければありがたいと立场上思いました。

(佐藤教育長)

今のご意見は、多くの要素が入っていると思います。やはり少子化は日本全体の大きな問題だとは思いますが、特に花巻市の場合は、例えば、先ほど須川委員からお話がありました。高校では魅力ある学校づくりに力を入れて取り組んでおられて、中学校3年生の市内の児童生徒数以上に高校の在籍数が多いのです。つまり、花巻の高校では非常に魅力化を図っ

ていて、他自治体からたくさん生徒が入学してきていることが、花巻市の高校の一つの成果だと思います。

それから、最近の状況で、花巻市の子どもたちの卒業生、特に就職する子どもはほぼ県内であるということで、地域への定着率が非常によくなっています。それは様々な産業進出があるということでもあり、働く場所については、昔ほど遠くに行かなければならないことはなくなっているように思います。もちろん、首都圏に出る子どもたちもいますが、最近の傾向は県内で就職する子どもが非常に多くなってきたという好ましい状況にあります。

毎年、児童生徒数は2%ずつ減少すると市内で分析しております。2%というと10年間で20%、20年で40%と非常に大きい数字ですが、原因を考えたときに、若い女性の定着率の低さ、若い女性が花巻から離れる傾向がある点を何とかしなければならないのです。そうするためには、若い女性が地元に住んで生活していく魅力あるまちづくりが、最終的には大きな課題だろうということまではきています。

それから、打田委員がお話しされた子育て環境も非常に大きな要素だと思います。こども・子育て会議等を中心として、花巻市では今、109ほどのこども子育ての施策を行っています。ある程度の成果は見えてきていますし、さらにいろいろなことを開発していかなければならないということで、特に若いお母さん方からは、子どもを連れて気軽に遊びに行ける場所をもっと増やしてほしいという要望をいただいております。

さらに、遊びに行ける場所について、どんなところがよいとお聞きすると、嗜好は異なるようです。今委員がおっしゃったような、広くて自然に恵まれて、例えば、夏でも木陰があって遊べるところがよいという方もいらっしゃいますし、あるいは、室内でたくさんのおもちゃがあって遊べる場所がよいという方、それから、若いお母さん方が交流できる場所がほしいという方もいらっしゃいます。様々なニーズがありますので、市内でさらに分析をすすめる、一つでも二つでも、魅力あるまちづくり、子育てニーズに合ったまちづくりを進めたいということで、今、これだというものはまだ出ておりませんが、検討して作業をしていくということだと思います。

打田委員には本当におかげさまで、花巻のことを早くからご理解いただいて、保育園、幼稚園、こども園、小学校の連携を早くから始めております。そのような中で、子どものプログラムを組みながら、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムなどに取り組んでおります。先ほどの学力のお話とも関連するかと思いますが、全体に地域のコミュニティが縮小している、人口減になっている中で、地域の教育力については大きな課題と捉えております。それから、家庭の教育力をもっと高める必要があるだろうと考えております。保護者の方々はお忙しいとは思いますが、その中でどのようにして子どもたちと接し、育んでいくかということで、子育てガイドブックを出しているのですが、さらに詳しくわかりやすいものも必要だろうと思います。

学力でつまづくところについては、保育園、幼稚園から小学校への接続、小学校から中学校への接続が一つ、それから、子どもたち全体に非認知能力がまだ不足していることもあり

ます。学力を培うための非認知能力を保育園、幼稚園、小学校、中学校の段階でも、生きる力の基本、基本的な生活習慣等も含めてしっかり確立していかないと、学力には結びつきません。特に社会性やコミュニケーションのスキル、それから、学力が低い場合、集団の中で不適応を起こしている子どもたちが多いことも大きな一因だということもわかってきました。そういった総合的な観点から、改善すべきところはたくさんあると思っていますし、しっかり取り組んでまいりたいと考えております。

大きなご意見で直接的な答えにはならないのですが、今、考えられるところをお話しさせていただきます。ありがとうございます。

(吉田委員)

資料4の不登校生徒児童の実態について伺います。

小学生の出現率は微増、中学生については増加、3.91の出現率であります。コロナ禍において、経済状態や家庭状況の変化が原因となり不登校となっているのか、あるいは、学校生活の中でのトラブルであるとか、発達の側面からくる不登校であるのか、特に中学生は大きな割合で増えていると思うのですが、わかっている範囲でお知らせいただきたいと思っています。

先ほど、教育長から若い保護者に対する子育て支援、具体的な方策、子育てガイドブックについて、どのように子どもたちに接していけばよいかという支援の方法の検討も必要であろうというお話がありましたが、私も同感であります。不登校の問題は、将来にわたって精神疾患とのつながりも懸念されます。コロナ禍で経済が悪くなって離婚率が高くなり、家庭環境が悪化して不登校になったとか、そのような状況が問題視されているのではないかと考えております。また、思春期で適応が難しくなったり、自分自身との葛藤など様々な変化が起こってきたりする時期であり、支援を具体的にどうしていくかが課題ではないかと考えております。それには、教育現場で行う現職の先生方への思春期保健への理解、声掛けの方法が重要であると思います。具体的な声掛けの方法がわからずに迷ってしまう、働きかけの方法がわからないからどう接したらよいかわからないために長期化してしまうことがあると考えます。現職の先生方への思春期保健の研修、同時に保護者の方々が心理教育やプログラミングに関して学べる場や、具体的な働きかけが学べるような機会が必要ではないかと感じております。

(及川学校教育課長)

貴重なご意見ありがとうございました。不登校のきっかけや原因については多岐にわたっておりますが、いじめを除く友人関係をめぐる問題が、特に中学校で多くあります。それから、小中とも共通して多いのが、学業不振でございます。勉強がわからないということで、不登校に至るという生徒がおります。あとは、中学校では部活動への不適応もあります。また、小中学校を通して、家庭に関わる状況を理由に不登校に至る子どもも多く発生してございます。

ここ数年、友人関係、学業不振、部活動、不適応と家庭環境が主な原因になっていますが、

単純な問題ではなく、お子さんによって多様に絡み合っているということで、非常に複雑な問題、あるいは、子ども自身で要因がわからないが不登校になっているケースもあり、対応に苦慮しているところがございます。現職教員への研修はそのとおりだと思っております。

教育委員会でも、なかなか全体での研修は難しいのですが、特に対応に困っている学校の先生方に、例えば昨年度は、改善塾という団体の講師の先生をお呼びして、事例に応じた助言をしていただいたこともございます。まだまだ不十分ですので、そういったところは拡充していきたいと思っておりますので、検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

(小原教育企画課長)

ほかにございませんか。

(なし)

(小原教育企画課長)

よろしければ、報告事項についてはこれで締めさせていただきたいと思います。

続きまして、次第6、審議に入ります。

花巻市教育振興審議会条例第4条第2項の規定により、会議の議長は藤原会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(藤原会長)

すでに1時間にわたって活発なご質問、ご意見をいただいているところでございますが、改めまして、皆さんこんにちは。本日はよろしくお願いいたします。

一昨年(2020年)の7月末、岩手県でコロナウイルス第1例目の発症報告がありました。それから2年(2022年)間が経ちましたが、今は1日1,000人前後と、考えられない数が毎日報告されております。医療機関では受入れの上限を超えてしまっております。自宅療養で間に合うのは幸いなことですが、大きな変化がこの2年間で起こっております。

私も仕事柄、県内の高等学校にお邪魔して説明する機会があるのですが、学校によっては、玄関脇に小さなテーブルと椅子を置いて、担当の先生とお話をして手短かに帰ってくるといふ厳戒態勢を敷いている高校もございます。

一方、先週、札幌で3年ぶりの理科の研究発表会がありましたので、参加してまいりました。2週間前にワクチン4回目を接種し、様々な対策をして参加したわけですが、大会運営も密にならないように広い体育館を用意するなど工夫されておりました。

私は理科の教員なものですから、実験そのものを目の前で見て討論することは、オンライン、リモートでなされてきたここ2年間とは、全く内容を異にした素晴らしい内容だったと感じております。

また、新幹線は空いておりましたが、帰りの飛行機は80%の搭乗率で、やはりこれから、注意しながらwithコロナの体制になっていくと感じたところでございます。

さて、配付された資料を拝見いたしました。先ほどからお話されておりますように、児童生徒の大幅な減少とそれに伴う教育環境の整備、再編、また、学力向上など、本日のテーマもたくさん内容がございます。貴重なご意見が多く出ますことを祈念申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第6、審議に入ってまいります。

審議(1)「第3期花巻市教育振興基本計画実施計画令和3年度主要事業の実施状況について」を議題といたします。事務局から説明を求めます。

(菅野教育部長)

令和3年度主要事業の実施状況ということで、生涯学習部長と併せてご説明させていただきます。

資料No.8をご準備願います。2ページ目をご覧ください。

1 子育て環境の充実について、資料に沿ってご説明させていただきます。

成果指標は子育てしやすいまちだと感じる市民の割合ということで、令和元年度の64.0%に対して、令和3年度実績値は54.2%となっております。ここで、成果指標の分析について記載はしていないのですが、昨年度の実績が56%ということで、令和元年度の現状値からかなり落ちていくということがございます。理由は様々あるところと思いますが、実際に下がっているのは令和2年度からということで、やはりコロナの影響が考えられ、こどもセンターや地域子育て支援センターで施設の制限等があったり、講座等計画していたものが中止になったりしたことがあり、子育て支援の施策を進められなかったというところも大きな原因になっているものと思っております。

具体的には、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを推進するため、保育所等の待機児童の解消を最優先事項として進めてきました。それから、県内保育士養成学校を訪問しての情報収集や私立保育所等に勤務する保育士等への家賃補助、奨学金返済支援補助を継続実施してきました。また、新たに新卒の保育士を対象とした就職支援金貸付を開始し、保育士確保対策を拡充してきたところでございます。ただ、先ほど説明もありましたとおり、待機児童について、令和2年度、3年度の当初はゼロだったのですが、令和4年度当初は3人ということで残念な結果になってございます。

また、保護者が抱える育児に関する様々な不安を解消するため、病後児保育室の運営のほか、新型コロナウイルス感染症の感染防止等を講じながら、地域子育て支援センターでの育児相談や地域子育て支援情報ネットワークの研修会を実施しております。制限がありながら、対策をとってできる部分をやったということでございます。

また、施設の老朽化が課題となっております、花巻学童クラブとひまわり学童クラブを統合して、新たにわかば学童クラブの施設整備を行い、保育環境の充実を図ったほか、児童の安全安心な保育環境を確保するため、公立保育園3園の耐震補強等を実施してございます。

コロナ感染拡大防止のため、子育て支援センター等の施設の利用制限などを行ったこと

が影響し、成果指標が目標値を下回りましたが、第2期花巻市子ども・子育て支援事業計画に基づき、第3子以降保育料等負担軽減事業や子育てガイドブックの発行など、市独自の取組を継続的に実施し、市の子育て環境の充実に努めたところでございます。

施策ごとにご説明いたします。

(1) 子育て支援の充実について、実施した事業を掲載しております。

子育て支援の充実ににつきましては、コロナ感染防止対策を徹底した上で、地域子育て支援センターを開所し、子育て相談や親子等が気軽に集い遊べる「ひろば」の開放やミニ講座等を実施し、保護者のリフレッシュの場や学びの機会を提供したが、2・3月は閉鎖となり子育て相談対応のみとなったところです。地域子育て支援情報ネットワーク交流会は、市内の感染状況を考慮し、1回のみの開催にとどまったところでございます。

また、児童の健全育成のため、学童クラブの運営を支援しておりますが、若葉小学校区の学童クラブ施設の老朽化が課題となっておりましたことから、先ほど申し上げました、わかば学童クラブの施設整備を行い、定員を増やしたというところでございます。

(2) 家庭の教育力向上につきましては、子育て講演会等、保護者を対象とした意識啓発事業は、コロナ感染防止の影響により、実施を見送りましたが、家庭の教育力に関するアンケート調査の実施報告や、「ニコニコガイド」の発行により、子育てに関する情報提供を行いました。

また、幼児に基本的生活習慣を身につけさせるため「家族でニコニコチャレンジ」を継続して実施し、家庭の教育力の向上の支援に努めたところです。

また、家庭教育支援講座として、親子やその家族の絆を深め、心身ともに健やかで、心豊かな子どもを育てる一助とするため、親やその家族を対象に子育てに関する学習機会を提供しております。

4 ページ、(3) 就学前教育の充実でございます。

社会で心豊かにたくましく生きていくことができる「元気な子ども」、「やさしい子ども」、「考える子ども」を育成するため、就学前教育推進計画に基づく「はなまき保幼一体研修」を実施し、保育士の資質向上に努めました。また、「花巻市アプローチカリキュラム」と「花巻市スタートカリキュラム」の周知・実践により、保幼小連携を図り小学校へのスムーズな接続に努めたところでございます。

また、公立保育園、幼稚園の施設については、各施設からの要望を踏まえ、いろいろな整備をしたところでございます。また、保育園業務支援システムの導入により、保育士の業務負担軽減を図り、保育の質の向上に努めたところです。

また、コロナ対策として、国の補助事業を活用し、保育園・幼稚園・認定こども園に保健衛生用品等を配布したところでございます。

次に、5 ページ目をご覧ください。2 学校教育の充実です。成果指標については、こちらにございます4つの項目となります。

4つの項目とも、まずは、最終の目標値に向かって堅調な数値になっているという状況で

ございます。4番目の児童生徒の学力の定着状況ということで、令和元年度が99、最終の令和7年度は、県平均100に対して101という目標になってございますが、先ほど照井委員からもありましたように、100になったから、101になったからいいということではなく、やはりもっと上を目指してよい指標だと感じたところでございます。

具体的には、学力向上について、小学校5年生及び中学校2年生を対象に実施した県学習定着状況調査結果によると、小学校の算数と中学校の国語は、県平均を上回り、小学校の国語と中学校の数学、英語は下回りました。また、小学校6年生及び中学3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査結果によると、中学校の国語は全国平均を上回りましたが、小学校の国語、算数と、中学校の数学は下回っております。県・全国平均を下回った一因としては、ゲームやインターネットを利用する時間が長く、家庭学習の時間が短いことが考えられることから、メディアに触れる時間の適正化を図る等により家庭学習時間を確保して、授業の質の向上との両輪による学力向上を図ることが必要と感じたところでございます。

体力向上につきましては、小学校5年生及び中学2年生を対象に実施した全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果によりますと、「運動が好き・やや好き」と答えた児童生徒の割合は、小学校は目標値同等、中学校は目標値以上となっております。今後も実践校を指定するなどして、体力、運動能力に課題を抱える児童が多い学校に重点を置いて取り組んでいくことが必要だと感じております。

学校適応支援につきましては、教育相談員、生徒支援員及びスクールソーシャルワーカーを配置して、学校生活に課題がある児童生徒に対応しております。全国と比べて不登校児童生徒の出現率は低いものの、増加傾向にあることから、不登校を未然に防ぐ早期対応を図るためにも、学校及び関係機関と緊密に連携して取り組んでいく必要があると感じてございます。

また、笹間地区の小中学校の保護者や地区住民を対象に開催いたしました教育懇談会において、将来的には太田小学校との統合を見据え、笹間第一小学校と笹間第二小学校を、令和5年4月に統合するという方針が地区住民の総意として決定され、この方針の実現のため統合準備委員会を設立し、統合に向けた準備を進めました。今後も、教育懇談会の開催等により、学校ごとの適正規模・適正配置について、慎重に検討を進める必要があると感じております。

小中学校の施設につきましては、桜台小学校の長寿命化改修について、学校PTAと連絡をとりながら実施設計を行ったところでございます。また、豊かな学びの実現のため、地域人材を活用した多様な授業の実施や学校図書館の読書環境の向上、児童生徒、教師、保護者、地域住民が相互につながる地域連携の取組等を行うとともに、学校運営協議会の設置を推進いたしました。

また、県学習定着度状況調査の質問紙調査で「自分にはよいところがある」、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童生徒の割合は改善傾向にあることから、引き続き、児童生徒の自己肯定感を高める指導や体験的な学習、キャリア教育の充実等に努めていくことが

必要であると感じております。

6 ページ、返還型奨学金「花巻市奨学金」については、コロナ感染拡大の影響等により収入が減少した方をはじめ、経済的事由により修学困難な方を対象として随時募集を行いました。返還補助制度である「奨学金活用人材確保支援事業」と合わせて、更なる周知を図って必要な方に使っていただきたいと考えてございます。

以下、学校給食等については記載のとおりということで、説明を省略いたします。

また、それ以下、個別の施策につきましては、説明分同様の内容が書いてございますので、記載のとおりご覧いただければと思います。

学校教育の充実までは以上でございます。

3 生涯学習の推進につきましては、生涯学習部からご説明いたします。

(市川生涯学習部長)

12 ページです。3 生涯学習の推進について、成果指標をまずご覧いただきたいのですが、生涯学習につきましても、33.2%から 21.9%に下がっております。

先ほど来の説明同様、コロナの影響で施設の利用制限があったことから、日頃の生涯学習活動への取組に影響があったと捉えております。その中でも、感染拡大対策に配慮しながら各種事業を行ってきたというものでございます。

3 について全体の説明をしたいと思います。

まず、講座等につきましては、先ほど申し上げたとおり、制限がある中で工夫して活動をしてきたところでございます。それから、新花巻図書館の整備に向けて、基本計画の策定に向けて試案検討会議を設置し、検討してきたという状況でございます。

また、青少年の健全育成に関しましては、コロナ拡大中ではありましたが、成人式を開催に向けて工夫をして、会場の選定、あるいは来賓、保護者への対応などを検討してきたことがございます。

また、国際化の推進につきましては、周年事業がありましたが、海外とのやりとりは難しいことから、延期あるいはインターネットで交流をしたりして対応してきたということでございます。

また、市立図書館においては、視聴覚教育ライブラリー等の周知を行いながら、図書館はできるだけ開館する形で、コロナの影響がある中、子どもたちをはじめとした読書活動の推進に努めてきたところでございます。

15 ページをご覧ください。

スポーツの振興につきましても、成果指標が 49.1 から 47.6 と若干落ちております。

これもやはり、スポーツの事業、各団体の行う大会など、できないものもございました。市が直接関与しているイーハトーブ花巻ハーフマラソン大会、イーハトーブレディース駅伝等につきましても中止をするという状況が昨年度ございましたので、それに加えて、スポーツ教室など、できるものは体育協会と協力して工夫しながらやってきたという状況でありましたが、やはり、なかなかスポーツに取り組む活動もたくさんできなかった状況と捉え

ております。

18 ページ、芸術文化の振興についてでございます。この1年間で芸術文化活動を行った市民の割合は、21.8%から 15.1%に減っております。これらにつきましても、芸術文化活動、各団体でやっているサークル活動などが制限されたこともあり、停滞したと捉えております。入館制限をしております中で、各記念館等は工夫して企画展を開催してきた経緯がございます。特に、萬鉄五郎記念美術館では、旧土沢小学校の一部を改修し、収蔵庫として整備するという事業を行いました。施設整備等を行いながら、コロナが落ちついてから事業を組めるように準備をしてきたところでございます。

やはり生涯学習施設はコロナの影響を受けますので、市民にサービスができなかった部分はあっていると思っておりますが、状況を踏まえながら、延期、開館時間を短くするとか、いろいろ工夫してやってきたというところでございます。

生涯学習部の事業につきましては、以上で説明を終わります。

(菅野教育部長)

18 ページ、芸術文化の振興について、民俗芸能や文化財の関係は、教育委員会で担当しておりますので、続けて説明させていただきます。

成果指標の、郷土の歴史・文化に対する誇りや愛着を持つ市民の割合ということで、令和元年度の現状値が 69.2%でありましたが、令和3年度実績値では 55.1%と減少してございます。全部コロナのせいにしたくはないのですが、様々なイベントや展示等が中止になり、担当でもうまく市民に伝えられなかったという思いはあると思いますので、コロナ禍の影響が大きかったという総括にさせていただきたいと思います。

民族芸能の伝承については、各種鑑賞会がコロナの影響で中止になっております。一方、小中学校での民俗芸能鑑賞会を開催し、子どもたちに興味や関心を喚起することができたという部分もございます。

文化財の保護と活用につきまして、様々なセミナーを開催いたしましたが、やはり、鑑賞会や講演会の中止ということで、直接市民が文化財に触れる機会が減少したことが大きなところとなっております。

以下、書いておりますとおり、博物館の展示も企画展が中止になるといった影響がございました。

19 ページ以降は、施策ごとに個別の事業を整理して掲載しておりますが、記載のとおりとなります。以上でございます。

(藤原会長)

只今、事務局から説明をいただきました。この件に関しまして、ご質問、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

(坂本委員)

感想です。萬鉄五郎記念美術館で、絵本作家である宮西達也の展示がありましたが、県緊急事態宣言が発令され、休館になってしまい見られませんでした。あまりにも残念でしたの

で、延期にならないのかと問合せをしましたところ、期間を延長していただいたので見る事ができたのですが、夏休みの時期に計画していただいたのに、子どもたちがゆっくり見る機会がなかったことが非常に残念でした。

今回の報告書を見せていただくと、コロナに振り回されていると感じました。それならば、コロナの影響が大きかったという総括が最後にないと、後から見たときにわかりにくいと思いました。一つの例を挙げて申し上げました。子どもたちに展示をもっと見せたかったです。

(藤原会長)

どの項目も大きく現状値から下がっています。10 ポイント、20 ポイントという大幅な下落もありますので、大変な影響だったということは、この数字からも見て取れると思います。そのほか、いかがでしょうか。吉田委員。

(吉田委員)

同じく、どの項目についても、企画はしたけれども、コロナの影響が大きく、とても残念だった現状であると感じました。先ほど少子化の問題がありましたが、先日、岩手思春期研究会の研修会に参加した際に、子どもたちのコロナ禍における思春期保健というお話があり、子どもの心の変化の中で「生身の人間に触れるのは嫌だ」、「バーチャルのほうが安心だ」、「コミュニケーションをとるのが不安である」、「対人不安が強くて人間関係を結べない」ということがあるということが今の社会問題となっていると指摘がございました。コロナ禍でもございますし、人間関係の不安、コミュニケーションの不安は、小中高、大学生も大きいところで、手当てをしなければならない部分であると思います。ぜひ、そのことについて支援を行うような企画があればよいと感じました。高校生も大学生も非常にコロナの影響を受けていて、生身の人間と付き合うのが嫌になってしまったら、少子化にもなるだろうと感じましたので、我々も人間関係を結ぶのは楽しいと言えるような企画や学習ができれば、子どもたちの経験につながると感じております。

(藤原会長)

ありがとうございました。

そのほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

(なし)

(藤原会長)

それでは「質疑なし」と認め、質疑を終了いたします。

それでは、お諮りいたします。「第3期花巻市教育振興基本計画実施計画令和3年度主要事業の実施状況について」原案のとおり決することでご異議ございませんか。

(なし)

(藤原会長)

「異議なし」と認め、原案のとおり可決されました。

続きまして、審議事項(2)「第3期花巻市教育振興基本計画実施計画(令和4年度)(案)について」を議題といたします。

事務局からご説明をお願いいたします。

(菅野教育部長)

それでは、令和4年度の実施計画(案)についてご説明させていただきます。

施策ごとに新たな取組のある、又は拡充する事業を中心にご説明いたします。

資料No.7、4ページの子育て環境の充実をご覧ください。

(1) 子育て支援の充実について、②保育力充実事業、保育士確保の事業になりますが、私立の認可保育所等勤務する保育士への家賃を補助する保育士家賃補助金について、一部補助の拡充を図るとともに、事業終期を予定している令和5年度時点で補助上限に達していない方についても、上限となる期間まで補助すると変更しております。私立認可保育所等に勤務する保育士の奨学金返済を補助する保育士等奨学金返済支援補助についても同様に、事業終期を予定している令和5年度時点で補助上限に達していない方についても、上限となるまで令和5年度を越えても補助すると変更してございます。

また、私立保育所等に新卒で就職する保育士等に1年間の勤務で返還免除となる、就職支援金20万円の貸付を行う「保育士等新卒者就職支援金貸付」を、昨年の12月から開始してございます。

そのほか、保育士確保として、8月17日には、保育士を目指す学生や高校生を対象に、市内の保育所等による就職相談、また、保育士養成校による進学相談等を行う「保育のお仕事フェア in 花巻」をなはんプラザで開催することとしてございます。

③学童クラブの施設整備事業では、施設の一部老朽化と児童の増加に伴う南城学童クラブの施設増築を、現在進めているところでございます。

また、事業としては掲載してございませんが、子育て支援の一環として3歳未満児の保育料、3歳以上のお子さんの保育料は今かかってございませんので、未満児の保育料について、9月から、国の定める保育料に対して、現状は27%くらいの軽減であり、他市より軽減率が低かったのですが、他市と同程度の40%に軽減するというところで進めてございます。次に5ページをご覧ください。

(3) 就学前教育の充実ですが、①はなまき保幼一体研修事業では、幼児教育保育の充実を図るため、幼児教育に関する専門的知識を有する方を、保育・教育アドバイザーとして委嘱し、幼児教育・保育施設への訪問支援を実施することとしてございます。

また、②幼稚園教育環境充実事業、③保育所保育環境充実事業、④発達支援事業では、それぞれの施設に防犯カメラを設置するということで、防犯対策を強化することとしてございます。

また、これも事業としては掲載してございませんが、園児数の減少により、令和5年度末

で土沢幼稚園を閉園することになりました。今年度、新規の入園募集を行わなかったことで、園児数がかなり少なくなっているということで、小学校入学後のことも視野に入れ、同じ地区にあります、つちざわこども園との保育交流事業を行ってございます。コロナの影響で中止になった部分もございますが、予定してございます。

次に、2 学校教育の充実について、7 ページをご覧ください。

(4) 個に応じた支援体制の充実、①特別支援事業では、問題を抱える児童生徒及び保護者への教育相談や特別な支援が必要な児童生徒に関する巡回指導等のため、教育相談員、スクールソーシャルワーカーを配置しておりますが、相談件数が近年増加傾向にあり、内容も複雑化していることから、スクールソーシャルワーカーを1名増員して対応しているところでございます。

次に、8 ページをご覧ください。

①小中学校学区再編成等調査事業ですが、何度かご説明しておりますとおり、令和5年4月の笹間第一小学校と笹間第二小学校の統合に向け、準備を進めているところでございます。また、ご説明があったとおり、ほかの学校においても、PTA 役員等も交えた勉強会等をはじめた学校もあるという状況になってございます。

③小学校施設維持事業、中学校施設維持事業につきましては、順次、必要な工事等を行っているところですが、大きいところでは、桜台小学校の長寿命化工事を、今年から3か年にわたって行うという計画になってございます。学校を開けたまま工事を進めていくということで、教室を動かしたりして、複雑なスケジュールになっておりますが、安全を確保した上で進めてまいりたいと思っております。

次に、5 芸術文化の振興につきましては、生涯学習部長から説明をお願いします。

(市川生涯学習部長)

それでは、生涯学習の推進について、9 ページからご説明いたします。

主な事業をご説明いたします。生涯学習講座等につきましては、コロナ禍ではありますが、工夫しながら開催する図書館等の事業もございます。

9 ページ、⑥図書館整備事業は、新花巻図書館の整備に向けて計画の試案を現在、引き続き検討しているものでございます。

10 ページ、青少年活動推進事業、特に、成人式につきましては、成人年齢が18歳からになりましたので、20歳の集いという名称で開催していきたいということで、例年どおり実行委員会の皆さんで検討していきたいというものでございます。

少年センター運営事業は、例年どおり非行防止のために、少年センターを運営していくというものでございます。

国際化の推進ですが、多文化共生推進のためのプランを現在作っております。そのほか、国際交流については中止、そして、オンラインでの研修等を検討していると聞いております。国内の友好都市事業につきましても、キャンプ等の予定がありましたが、中止としております。

11 ページ、スポーツの振興です。スポーツにつきましても、コロナに注意しながら事業を行っております。イーハトーブレディース駅伝は開催する予定で準備をしております。競技スポーツ、大規模スポーツにつきましては、来年度、東北総合体育大会を開催する準備をしております。今年度9月には日本スポーツマスターズ 2022 岩手大会（バレーボール、ソフトボール）の開催地となっております。

13 ページ、芸術文化の振興であります。芸術文化活動も難しい中、②文化会館の整備、音響の改修に向けて、今年度設計をしております。今後、具体的な改修に入っていく予定です。

14 ページ、企画展等の開催であります。先ほど坂本委員からもお話があったとおり、企画展を工夫しながらやっております。期間を延ばすのは大変なことで、著名な作家の作品は次の展示などの予定もありますので、それらを、各館の職員が工夫しているところでありました。今年度も工夫しながら開催していきたいと思っていますところです。

（菅野教育部長）

15 ページをご覧ください。

(3) 文化財の保護と活用です。①文化財保護活動事業では、今年度、西宮野目にあります花輪堤ハナショウブ群落の保存活用計画の策定を予定しているところです。③展示活動事業では、シャガールやピカソ、ダリなどのリトグラフポスター等、個人の方のコレクションであります。それをお借りして展示している「20 世紀巨匠の版画たち展」が、現在開催中であります。

このほか、石鳥谷歴史民俗資料館収蔵の国の重要民俗文化財の収蔵用の資料の修繕、また、石鳥谷歴史民俗資料館の旧耐震基準の部分があるのですが、展示の資料の移設等を検討しているところでございます。

また、⑤市史編さん事業につきましては、今年度は、市史編さん委員会や各専門部会の設置について、検討していくことになってございます。

(4) 民俗芸能の伝承につきましては、郷土芸能鑑賞会のような事業に対する国庫補助金が採択になりましたことから、例年より多い回数を開催する予定としており、5 回ぐらいの開催だと思いましたが、すでに 3 回開催できてございますので、秋にも予定しているのですが、コロナ禍の中で予定どおり開催できればと思っています。

全体的に、昨年度コロナウイルスの影響というお話を申し上げましたが、コロナに対する対応も 2 年前、昨年と比べて変わってきてございますので、with コロナと言いますが、どうしてもできない事業も出てくるとは思いますが、感染対策をとったり、できない場合は振替の事業を考えたりして、進めてまいりたいと思っています。

（藤原会長）

只今、事務局から説明をいただきました。

ご質問、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

それでは、私からお伺いします。8 ページ (6)、⑧部活動適正化推進事業ですが、成長期

の生徒の部活動と休養のバランスを取るとともに、部活動指導員の配置により教員の負担を軽減するとあります。

部活動指導員が配置され教員と入れ替わるということで、教員の働き方改革という面では大変有意義なことだと思います。一方、子どもにとってみれば、例えば、17 時まで先生方で指導し、その後体力十分な指導員が 17 時から指導するということでは、子どもの負担が大きすぎると思います。先ほど照井委員から秋田県のお話がありました。十数年前、秋田県の東成瀬村の教育長を招いて、教育センターで講演していただいたのですが、秋田県では、18 時半には家庭にいて、家族と顔を合わせて食事をとるそうです。ということは、18 時には部活動は終わっているということです。

部活動指導員に切り替わるのは大変結構なのですが、元気のある指導員が指導したのは子どもの体が持たないと思います。例えば、16 時半までは部活動の顧問の先生が、スタートの段階で点呼をとるなどして、その時点で部活動指導員に切り替わるというのであれば、大変結構かなと思っています。体力の確保も必要ですし、また、家庭学習の時間の確保、適量な課題を与えて、先生が点検をするといった家庭学習のリズム、習慣化が基礎学力には大変大事なことだろうと思っています。

以前から私はこの持論を持っているのですが、現在、花巻市の部活動は何時ぐらいまでやっているのでしょうか。それから、指導員の配置状況はどのようになっているのでしょうか。

(及川学校教育課長)

まず、活動指導員ですが、現在 24 名雇用しておりまして、市内の中学校 10 校に配置しております。

(藤原会長)

勤務時間は何時から何時まででしょうか。

(及川学校教育課長)

勤務時間は、それぞれの学校によって異なるのですが、18 時～20 時、17 時～19 時といった時間の学校が多いと思っています。花巻市の部活動のガイドラインでは、学校管理下の部活動の活動時間と、父母会練習、スポーツ少年団活動といわれる活動に切り替わっている部分はありますが、平日は合わせて 2 時間以内ということにしております。例えば、学校で 16 時半～17 時まで活動した場合、残りの活動時間は 1 時間半までということで、各学校ではだいたい守って活動していると把握しております。学校によってまちまちですが、活動時間は、平日 2 時間、休日は 3 時間以内ということで、おおむね守られて活動していると思っています。

(藤原会長)

20 時までとなると、その間は何をしているのですか。間があいていますよね。

(及川学校教育課長)

学校や部活動によって様々ですが、指導員の方は仕事のある方も多いので、終わってからとなると 18 時ぐらいからしか開始できない場合もあります。一旦帰ってまた集まるケ

ースもありますし、17 時ぐらいまでは学校で勉強して、17 時から始めるというケースもあり、まちまちというところです。

(藤原会長)

指導員も仕事が終わってから指導することになると思うのですが、本来のあるべき姿ではないですね。子どもたちのことを基本に考えていかなければ駄目だと思います。子どもは 18 時半には家に帰っていることが秋田県の常識です。岩手県では、部活動をした後、一旦家に帰って夕飯を食べて、保護者が車で体育館に連れて行って、21 時、22 時まで活動することもあるとお話ししたら、考えられないとおっしゃってありました。18 時半には家に帰って家庭の時間を作ること、生活のリズムを整えることが基本だと思います。これが、学力の基本になっていると思います。私はそのように思います。意見です。

(吉田委員)

私も学校に勤めており、2 年前まで現職でありましたので、活動時間については、やはり体力の問題や学習時間の確保の面で、線引きをするのは大事なことだと考えております。

現在、2 時間以内の活動時間が、きちんと守られていることを願うとともに、定期テスト期間中に職員や指導員が拡大解釈をして活動することがないように願っております。

(藤原会長)

そのほか、よろしいですか。

(なし)

(藤原会長)

それでは、質疑はこれで終了といたします。

お諮りいたします。「第 3 期花巻市教育振興基本計画実施計画（令和 4 年度）（案）について」を原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

(藤原会長)

「異議なし」と認め、原案のとおり可決されました。

以上で終わりますが、活発な多くのご意見をお寄せいただきましてありがとうございました。

議事を終了いたします。ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

(小原教育企画課長)

藤原会長におかれましては、円滑な議事進行、大変ありがとうございました。

次第 7、その他でございますが、委員の皆様から、何かございませんか。

(打田委員)

先生方がたくさんいらっしゃる場ですので、お尋ねいたします。

この大雨で、先日は山形、今は青森で被害報告がありました。災害時は、避難の勧告が出る少し前に、私たちのような園は明日休園ということで保護者にお知らせします。コロナの場合は、こども課と私たちと相談をして、指導のもとで休園することが決定します。しかし、河川敷の増水は、目の前で見ている人しかわからないですよ。相談したところで、一緒に見て、どうするかをすぐに決めなければ、水はすぐに溢れてしまいます。ですので、花巻市ではどのようにして判断するのか、園は河川のそばですので、迅速な対応をしないと困ると思います。川が決壊するとなったらもう遅いかもしれないですが、その判断はどうすべきなのかお伺いしたいと思いました。

(菅野教育部長)

花巻市全体として防災に取り組んでおりますので、急に、この園が危ないということではなく、ある程度予想される状況になってございますので、予想段階で情報共有しながら進めていければと思います。今、きちんとした答えにはならないのですが、花巻市として防災体制をとる中で考えていくということで、情報共有をした上で、危険であれば避難するということも出てきますし、休園も考えられることですので、連絡をとりながら進めていければと思います。

(打田委員)

命に関わることですので、迅速な対応をお願いしたいと思います。保護者の方々もわかって協力していただけたらと思います。人の命ですので、しっかりお願いしたいと思います。

(菅野教育部長)

おっしゃるとおりです。

(小原教育企画課長)

ほかによろしいですか。

(なし)

(小原教育企画課長)

最後に、教育長から御礼のご挨拶を申し上げます。

(佐藤教育長)

長時間にわたり、多くのご意見をいただきましてありがとうございました。

資料の出し方について、今後はやはりもう少し工夫しなければならないと思いました。口頭でお伝えするだけではなくて、今年度工夫していることについても記載しないと、口頭だけでは伝わらないところもございますので、改善してまいりたいと思います。それから、全国学調等のデータについても、口頭ではなく数値でお示しすることについて、改善してまいりたいと思います。

今年度取り組んでいることは、昨年度よりも実はたくさんあるのですが、お示しできないということは、情報提供が不十分ということになり、そうすると評価、点検に関わってくるだろうということで、改善してまいりたいと思います。

それから、部活動の件については、部活動の見直しということで、28年度の終わってから7年間取り組んでまいりました。以前のように、スポ少なのか、部活なのか、父母会練習なのか、雑然としていたところは整理して、昨日も部活動の検討委員会がありましたが、ご理解をいただいて、子どもたちの負担について、あるいは指導のしかたについて、量と質の精選を図ることについては大分改善してきたと思います。

ただ、学校で行う部活動とスポ少については、基本的には、学校の教育課程外ではありますが、線引きは難しいところもあります。スポ少はあくまで任意だと捉えています。ただ、子どもにとってそれがどうなのかということもあるので、もう少し、子どもの立場に立ってやっていかなければならないでしょうし、もちろん、家庭学習とか基本的な生活習慣の育成という意味では、今後もぜひ検討していかなければならないと思います。

併せて、国では今、部活動の地域移行という大きな課題が出てきました。昨日もその件に触れております。まだ、たたき台は出していませんが、国では来年から試行期間を何年かもって移行していきたいということを言っています。国で方針は出したのですが、ガイドラインについて、細かい部分や予算的な裏付けはまだというところもあります。これはどちらかというと都市型の発想なのですが、地方は少子化が進んでいて、必ずしも同じ考え方とはいえない部分もあります。同じ花巻市でも旧花巻の中心部と周辺部とでは状況に違いがありますし、周辺部ではすでに選択肢が非常に狭くなってきていることなど、多くの課題が出てきております。昨日は関係者に集まっていただき、まずは想定しうる課題を出していただきました。今度はそれを整理する作業に入ります。年度中に整理をかけた上で、このような方法でどうですかということでお出ししていく方向としております。

最後に、打田委員からお話があった休園、休校措置の基準についても、大きな課題だと思います。地域によって状況が全く異なりますので、市の防災担当で、とにかく早い情報共有と情報発信に努めておりますが、全国的に見ると、例えば震度がいくつの時には休校とか、空振りしても早めに発信するという立場のところもあるようです。花巻市としてももう少し詰めていかなければならないところだと思います。最終的には、それぞれの校長、あるいは設置者の判断になろうかと思いますが、子どもや職員の安全、生命尊重について、もう少し詰めていかなければならないと思います。

大変貴重なご意見ありがとうございました。たくさんのご意見をいただきましたので、この後、振り返りをしながら、改善に努めてまいりたいと思います。本日は長時間、ありがとうございました。

(小原教育企画課長)

以上をもちまして、令和4年度第1回花巻市教育振興審議会を閉会といたします。

大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。